

『特別支援教育で行う外国語活動の実際』 久保 稔

(中富良野町立中富良野小学校)

1. 特別支援教育における外国語活動

- ・児童の特性に基づいた活動
- ・外国語活動の特徴…ペアワークなど、会話をする場面が多い
- ・ゲームなどの活動が中心→情緒の解放(運動面・感情面)
- ・歌やリズムを用いた活動など、楽しいものが多い。

2. これまでの実践について

○児童の実態

- ・体を動かすこと
- ・繰り返し練習することを苦としないこと
- ・視覚優位の子が多いこと
- ・興味があることは長時間集中できること



- ・視線を合わせて話をする
- ・友だちと上手にかかわること
- ・感情をコントロールすること
- ・こだわりがある

○目標

- コミュニケーション能力の向上
- 情緒の解放
- 対人関係能力の向上
- 感情コントロール
- ソーシャルスキルトレーニング

○目指す児童像

- ・自立を促す
- ・困り感の改善、克服
- ・個性の伸長
- ・生活経験を積ませる

3. ICTを活用した外国語活動～パナソニック教育財団助成事業～

特別支援学級に在籍する児童は、困り感(つまづき)や生活経験の不足などの負の特性をもっています。しかし、視覚情報を理解(処理)しやすかったり興味のあることには集中力が持続したりするなど、正の特性もたくさんもち合わせています。そのため、普段の学習でもピクチャーカードやNHKの番組などを活用し、児童が理解しやすい手立てを講じています。視覚優位な児童の場合、視覚に訴えるものがあるかないかで、集中力や学習内容の定着という点で大きな差が生まれます。

そこで、今年度は愛媛大学の中山晃先生と共同で、『特別支援教育での外国語活動におけるICTの活用』という観点で研究を行っております。中山先生や他の共同研究者と共に、児童の興味を引き付ける教材開発を行うとともに、児童の特性に応じたアクティビティやカリキュラムの研究を行っていきたいと考えています。